

2026年1月号  
信頼を礎に、新しい政治を。

Next

1月

ARAKAWA

自民党プレス

どんな事も私たちにお気軽に  
相談してください。

自民党荒川区議会

自民党

Lib Dems

Liberal Democratic Party of JAPAN

03-3802-4625

〒116-8501 荒川区荒川二丁目2番3号 5階 自民党控室



荒川自民党LINE



北城さだはる



斎藤やすのり



なみき一元



もぎ弘



明戸まゆみ



すがや元昭



鎌田みちてる



夏目亜季



どばしけいこ



西川こうへい



若林ゆき



新年のご挨拶

新年おめでとうございます。今年は大きな災害もなく、区民の皆様が健やかに暮らしていけるようご祈念申し上げるとともに、自民党荒川区議団として、区民生活の支えになる政治を進めて参ります。

さて、荒川区議会では、昨年12月25日に臨時で本会議が開会され、国から交付される重点支援地方交付金の使い道に関する議論を行いました。今回、自民党として、補正予算に賛成しましたが、事前に要望書も提出し、多くの意見、要望を行いましたので、いくつかご紹介します。

まず、国から重点支援地方交付金として約10億円の予算が交付されますが、現金給付をすると2億円強の事務費がかかり、これを差し引いた予算を区民で頭割りをする事になります。この給付金の事務費に関しては、様々な場で圧縮をこれまでも求めてきましたが、交付金が必ず毎年決められた時期に交付されるものでもないため、なかなか給付事業用のシステムを構築できずにいました。今回改めて、給付ではなく、税金等から控除をするかたちで、事務費をかけずに事業を行う提案や、そもそもマイナンバーカードと口座の紐づけ等も活用しながら、自治体を経由せず、国自身が給付を行っていくことを国に求めて欲しいという意見もしました。また、給付金事業はコロナ禍で1人10万円の給付を行って以降、非課税世帯と子育て世帯にしか行っておらず、働く世代に還元できていないことも問題として挙げました。今回は年内に補正予算の方向を決定しなければならない時間的制約もあり、全区民一律の頭割りに賛成をしましたが、**今後は働いて納税いただいている方だけの給付や区民税の優遇措置についても現実的な選択肢のひとつとして議論していく必要性を挙げた**ところです。

今、政府が高市内閣に代わり、今まで日の当たらなかったところや、言葉を濁してきたところが露わになってきています。自民党荒川区議団としても、しっかりとその意図を汲み、行政のマインドを変えて、若者や働く世代にも区政の光が当たるように、今年も意見や提案を重ねて参ります。



# 自民党区議団で行政視察を行いました



## 舞鶴市長を表敬訪問～ゆいの森が結ぶご縁～

鴨田市長より、現在整備が進む新図書館づくりにおいて荒川区の「ゆいの森あらかわ」を参考にしているとのことのお話を伺い、大変嬉しく思いました。また、「全国茶品評会」で舞鶴市が産地賞1位を受賞されたこともご報告いただきました。さらに斎藤議長からは「図書館完成時にはぜひ再訪問を」とのお言葉もあり、自治体間の連携が一層深まることを期待しています。

## 海上自衛隊 舞鶴地方総監部 視察

西脇海将ら幹部の皆様と意見交換し、舞鶴は海軍ゆかりの地であり、総監部内には東郷平八郎元帥の旧邸「東郷邸」が保存され、海軍記念館には日露戦争に関する資料も展示されています。護衛艦「あさぎり」では艦内設備や任務を伺い、隊員の強い使命感を肌で感じました。日本海側の防衛拠点として舞鶴が果たす役割は極めて大きく、現場の緊張感と重責を改めて実感する視察となりました。



## 舞鶴引揚記念館の平和教育としての役割

舞鶴引揚記念館は、戦後の引揚とシベリア抑留の実態を伝える国内唯一の施設であり、資料や証言映像を通じて平和の尊さを学べます。語り部の高齢化が進む中、証言のデジタル保存や次世代語り部の育成など、舞鶴市の取り組みは平和教育を未来へつなぐ重要な基盤です。今回の講義を通じ、記憶をどう残し伝えていくか、その課題と可能性を改めて実感しました。



## 滋賀・大津の官民連携まちづくりを視察！

大津市で、官民連携によるまちづくりを視察しました。琵琶湖岸の「なぎさのテラス」やLAGO大津の水辺と調和した空間、旧大津公会堂や町家活用など歴史と地域資源を生かした取り組みが印象的でした。駅前広場の活用制度も先進的で、荒川区の日暮里駅前広場の利活用にも参考となる点が多くありました。

